

●森の人インタビュー

第10回 内海美沙さん

●第3回ライブ・アンド・フォレスト

●北山三学区まちづくり報告会

●北区雲ヶ畑での森づくり活動

○街路樹とも共生する発想を！

○映画「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」公開中！！

○連載（森林・林業小話 19）

No.31 2014.5.25 発行

森の人インタビュー

第10回

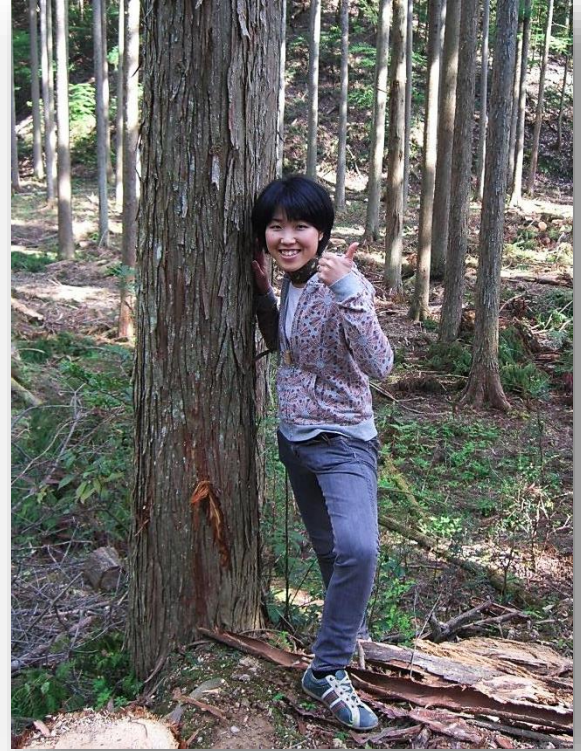
「森の人インタビュー」第10回は、木材コーディネーターの内海美沙さんにお話を伺いました。

「林業界のジャンヌダルクとして生きていきたい」—そう語る彼女は凛として美しくキラキラしていました。小学生の頃にジブリ映画「平成狸合戦ぽんぽこ」をみて、たぬきと人間と一緒に住めるような「共生型まちづくり」をしたいと思ったことがきっかけで、大学では工学を専攻し河川についての研究をしていたそうです。そんな彼女と林業との出会いは2009年2月放送のNHK番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」。日吉町森林組合参事(当時)の湯浅勲さんが出演されていて、その仕事に興味を抱き、すぐに森林組合にコンタクトをとって見事採用！森林プランナーとして働くことになりました。「日吉町森林組合」と言えば日本でも有名な森林組合。外部から視察に来る人も多いおかげで、沢山のネットワークが広がったそうです。「日吉町で森林プランナーをしている女の子というだけでみんなから信頼してもらえて、親切にしてもらえた」という内海さん。自分はすごく周りに恵まれているからこそ何かしたい！という気持ちが彼女の原動力になっているのだらうと感じました。残念なことに今は森林組合から退かれています、その想いを胸に現在フリーの木材コーディネーターとして奮闘なさっており、さらに今年秋に予定している一般社団法人「森民-moritami-」設立に向け着実に準備を進めていらっしゃいます。

そんな姿を目の当たりにした人がいつか彼女を「林業界のジャンヌダルク」「森の妖精」「林業界の女神様」などと呼ぶようになりました。そう言われることに初めは戸惑いもあったけれど、きっとそれは林業界で求められている人材なのだろうと考えるようになったそうです。じゃあその私の役割って何だろう・・・悩んだ結果行きついた答えが「林業女子」であり、「木材コーディネーター」でした。どちらも今の林業変革期に重要なものであり、彼女は林業界のジャンヌダルクとしてその「旗持ち係」を務めようと覚悟されました。

「林業女子」って大きな存在なのだな、と彼女の言葉を受けて改めて感じました。確かに女性が林業に携わるのは、男

性と比べて体力面では限界があるかもしれませんが、「自



木材コーディネーター 内海美沙さん

分なりのスタイルで工夫することができる」と内海さんは話します。力仕事だけが林業ではなく、目配りや細かな仕事、地域の人とのやりとりなど大切なことは沢山あると教えて下さり、柔らかな考え方や女性ならではの視線は林業を盛り上げていくためには不可欠なのではと思いました。また「木材コーディネーター」に関しては、山で働く人が自分が育てた木が将来何に使われるのか考えないで手入れできるわけがないという立場をとっています。現在はまだ川上側・川下側がバラバラに動いていることが多いようですが、木材コーディネーターの働きかけでお互いが歩み寄り意識できれば森林管理や木材流通がさらに大きく好転するかもしれません。

取材で内海さんは顔を輝かせてご自身の考えや夢を語って下さいました。そんな彼女の心には、植えられた木を大切にしたい、山主さんの大事な山を元気にしたいという林業への熱い想いが満ち溢れていて本当に素敵でした。前向きに頑張っているけどまだまだあせりはあると仰っていましたが、きっと夢が実現した時、多くの人に勇気を与えて下さるにちがいないと思います。今回の取材を通し、私もいつか林業界に貢献できる女性になりたいと強く思いました。(豊濱)

★第3回ライブ・アンド・フォレスト★

☆北山三学区まちづくり報告会☆

気概をもって林業で起業！



2月11日に京都駅にほど近いキャンパスプラザ京都にて、「第3回ライブ・アンド・フォレスト～森林(もり)がまち・地域・暮らしをつくる～」が開かれました。パネラー3人の講演とディスカッションは聞き応えがありました。

今回お招きした井筒耕平さん(村楽エナジー)、川畑理子さん(グリーンマム)、久米歩さん(ソマウッド)はそれぞれ形態が違いつつも、何らかのビジネスを展開しておられるところが共通点です。しかも、今の時代に合わせた内容を編み出し、小規模ながらも着実に業務を進めている点も似ています。その実行力の源泉がどこにあるのかと考えているうちに、頭の中でこねくり回すような発想自体がそもそも本質を見誤っている気がしてきました。むしろ大事なことは、とにかくやってみようという気概や突破力で、運用面などの細部は後から調整すればいいのです。今後、仕事を進める中で難しい課題に直面することがあったとしても、乗り越えていだけのパワーを持っておられると感じました。また、パネルディスカッションを通じて、家族をはじめとした周りの人の支えも重要で、個人の努力だけでは不十分なことも伝わりました。地域の人や顧客に満足してもらってこそ仕事をしている意義があるはずで、単なるお金儲けの手段として自分たちのビジネスをとらえておられるわけではないと思われ、共感させられました。

林業関連のビジネスと一口にいっても、「絵空事でしかない」と思っている人の方が多く現実があります。そんな中でも、着実にステップを踏んで新たな地平を切り拓こうとする姿勢は感心するばかりです。(野瀬)

住民の手で地域を元気に！

3月16日に京都市北区の中川出張所で「北山三学区まちづくり報告会」が行われ、小野郷、雲ヶ畑、中川からそれぞれ住民の皆さんが集まって、これまでの取り組みと今後の方向性を話し合う場となりました。

まちづくりという言葉を聞くと、農林地を切り開いて新たに街をつくるイメージが以前はありました。そんな時期は過ぎ去ってしまい、今となっては活気を失った街をどうするかといった時に使われています。北山地域は、林業が盛んだった当時から状況は変わり、京都市内の中心部から離れていることもあって、子どもたちの姿を見る機会が減っています。そこで、行政のサポートを受けながら住民みずから話し合いを重ねて方策を練ろうとしたわけですが、途中過程を記録した動画がとてもよくできていました。当日、その場で編集した動画も流されるなど、議論を重ねた参加者にとっては強く印象に残っただろうと思います。

即効性のある対策は打ち出せないとしても、三学区ごとにそれぞれロゴマークや標語をつくるなど人を呼び込む体制はできつつあります。あとは、いろんな人に支えてもらいながら、どうやって来訪者を増やすかにかかってきます。関心を持たれた方は下記のサイトをぜひ閲覧して下さい。

<http://kitayama3.jp/>

(野瀬)

京都の街から30分、こんなところに、ありました。



鴨川源流

雲ヶ畑

しあわせの再発



北山杉の里

中川

風景が、ごちそうです。



落葉姫の里

小野郷

Oh ! No !

～北区雲ヶ畑での森づくり活動～

第1回 シカ対策ネット張り

昨年度より、北区の雲ヶ畑において、森づくり活動を始めました。3年間にわたって同じ場所で継続的に活動を行っていく予定です。その場所は、もともとマツの山で、伐採後にスギやヒノキの植林が行われたものの、この場所がもともとやせ地であることや、シカの食害を受けたことにより、スギやヒノキがうまく育っていないという状況でした。そこで、第1回の活動として、3月2日にシカ対策ネット張りを行いました。

3つほどの班に分かれて、支柱を地面に打ち込む作業、ネットを支柱に取り付ける作業、ネットが外れないようにペグを打ち込む作業を行いました。今回、作業は8人で行いましたが、約30メートル四方の場所を囲むネットを張るだけで丸1日かかりました。これだけ苦労して張っても、シカがネットを破ったり、飛び越えたりして中に入ることもあるそうです。シカというのは本当に厄介だなあと改めて感じさせられました。

6月8日には第2回の活動として、アカマツの種まきを行います。この場所がすてきな森になるのはまだまだ先の話です。「長い目でものを見る」ことの難しさや大切さを感じながら、これからもこの活動を続けていきたいと思えます。(柏木)



街路樹とも共生する発想を！

今年に入ってから街路樹による被害が連続して報道されている。3月16日に広島県三原市の「三原市芸術文化センター・ポポロ」で敷地内のポプラが倒れて女性2人を傷つける事故が起き、お一人が亡くなった。また、4月15日には神奈川県川崎市のショッピングセンター「フレルさぎ沼」で、ケヤキの枯れ枝が落下し、6歳の女子に重傷を負わせた。これらの事故を受けて、街路樹を管理している全国の自治体では街路樹の緊急点検が行われたと報道されている。



↑伐採されたイチオウの切り株(七条大宮の北西)

このように、街路樹による被害に世間の注目が集まる一方、京都市では烏丸通りの御池から四条にかけて狭い中央分離帯にケヤキの若木が3月末に新たに植えられた。一方、道路工事の支障になるためか、同じ時期に七条大宮から北側の直径20cm位にまで育っていたイチオウ並木が根元から切られた。

京都市のHPによると街路樹の景観上の役割は「まちなみに統一感を与え、沿道景観に彩り・季節感・うるおいをもたらす」とされるが、多くは狭い場所に植えられ、寿命すら全うできないのが現状である。高木になる樹木を街路樹として導入する時には、10年後や20年後の成長を見越した場所に植えてほしい。最悪、伐採してもその材を木製品などに用いる発想と仕組みを用意すべきである。街路樹の状況を考えると、人の都合で命ある樹木をもてあそんでいる気がしてならない。

京都・森と住まい百年の会は「森と共生する豊かな暮らしを後世に引き継ぐことを目指して」活動している。私たちは街路樹として植えられている木々とも共生する発想を広げたい。(樹木医 白石秀知)

映画「WOOD JOB!～神去なあなあ日常～」公開中！！



映画「WOOD JOB!～神去なあなあ日常～」が5月10日から公開されました。この映画は、三浦しんさんの小説「神去なあなあ日常」が原作の林業エンターテインメント映画です。「スウィングガールズ」や「ウォーターボーイズ」を手掛けた矢口史靖さんが監督をし、染谷将太さん、長澤まさみさん、伊藤英明さんが出演しているという、なんとも豪華なメンバーの映画です。

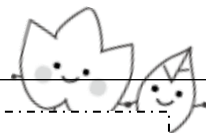
実際に映画を観て、最初に感じたのは「こんな素敵な林業界に関わることができてよかったなあ」ということでした。ただ単純に林業についてスポットを当てているというよりも、林業に関わるいろいろな人が描写されていました。田舎独特の人間関係やちょっと下品なところも注目しながら、その価値観や、美意識もちゃんと描かれていてすごく奥が深い映画でした。林業の大変さよりも、林業はいろんな面で魅力的なんだ！ということが前面に押し出されていて、それがまた個人的にはうれしいなと感じました。この映画を機に林業は今まで以上に注目されると思います。一時のブームで終わらせないように、映画で林業に興味を持った人にもっと深く知ってもらえるようにしていかなければならないなという気持ちになりました。

(齋藤)

京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO法人京都・森と住まい百年の会をご紹介します。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。



〒604-0931
京都市中京区寺町二条下ル櫻木町98-7
京都ベレット町家ヒノコ内
Fax:050-3309-6365
E-mail:kyoto100nen@gmail.com

京都・森と住まい百年の会

ホームページ<<http://www.kyoto100.com>>
ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

編集後記

こんにちは、事務局の豊濱です。30号に続いて編集させて頂きました。私事ですが、この春は山菜を満喫しました。タラノメ、コシアブラ、タカノツメ、ワラビ、アザミ、ヨモギ、ノビル…どれもとってもおいしくいただきました。初めて味わった山菜もあり、「あ、こんな植物も食べられるんだ！」と新たな発見があつて嬉しかったです♪素敵な山の恵みに感謝です★